

介護職アンケート 結果【考察】

概要

新川地域介護保険・ケーブルテレビ事業組合の2021年度事業として行う介護職PR映像制作に伴い、基礎資料として実施した現役介護職対象のアンケート調査結果を【考察】及び【グラフ】にまとめた。

調査方法

2021年4月～5月に新川地域介護保険・ケーブルテレビ事業組合管内(富山県黒部市・入善町・朝日町)にある介護施設へ調査協力依頼、アンケートを郵送。返送されたアンケート用紙を集計。

回答者

29施設から250を超える回答あり。 回答率100%

アンケート結果

<1> 回答者属性

→【グラフ】①・②参照

考察 回答者の勤続年数を5年単位でまとめたが、比較的まんべんなく各層から回答が得られた。特に6年目～20年目、つまり、20代～40代(想定)のまさに現場で活躍する世代が回答者の70%を超え、本調査の目的である「現場の声」を拾えたといえる。
また、主な施設としては特養・老健・医療施設が全体の40%と最も多く、多機能型居宅やショートステイはそれぞれ全体の5%以下にとどまった。

<2> きっかけ

→【グラフ】③参照

考察 介護職を目指すきっかけについて質問したところ、最も回答数が多かったのは「社会的に意義のある職業」で全体の30%。
「身近に介護職の人がいた」や「職業体験等で興味を持った」など、以前から介護職に触れる機会のあった人が合わせて27%以上あった。このことから介護職の存在や内容、実態について知ってもらう機会を増やすことで、進路の検討時に選択肢として挙がることが推測される。
また、本調査で回答の選択肢として設けなかったが、自由記入欄で「家族のため」また「高齢者が好き」という意見もあり、現役介護職の中には、身近な体験から興味を持った人たちがいることがわかる。

<3> 業務について

→【グラフ】④～⑦参照

考察 身体的に、心理的に大変な業務とやりがいを感じる業務について質問したところ、回答の傾向が異なることがわかった。
身体的な業務については、最も多い入浴介助が全体の40%、次いでトイレ介助(おむつ交換)が20%と、多くの人が共通の業務を挙げている。今後、補助機器の導入や人員体制の改善などが期待される。
一方で、心理的に大変な業務の回答は分散した。「その他介護の仕事」が27%、「介護以外の仕事」が20%と上位を占めているが、自由記入欄では多岐にわたっている。もっとも多くの方が答えたのは、夜勤の18%だった。
自由記入欄では「認知症利用者への対応」や「不穏時の利用者の対応」で全体の10%を超える。今後さらなる専門的な技術の構築や、現場職員へのサポート体制などの検討が必要ではないかと考察する。
一方で、やりがいを感じる業務について回答の40%以上を超えたのは「その他介護の仕事」で、回答者全体の20%近くが利用者とのコミュニケーションや感謝の言葉にやりがいを感じている。
また、利用者の笑顔が見られる等、他者への貢献にやりがいを感じる介護職がいることもわかる。
また、「辛いけどやりがい」という同一項目を選ぶ回答者もあり、その中でも、身体的にもっとも大変な業務に選ばれた入浴介助が、一方ではやりがいにつながっていることがわかった。数名だが介護の所謂『汚い』業務のひとつ「トイレ介助(おむつ交換)」をやりがいと答える職員もおり、世間一般が抱くマイナスイメージが必ずしも現場の心象と直結するわけではないとも考察される。

<4> 改善希望について

→【グラフ】⑧参照

考察 回答者の５７％が「給与増額」を希望。このことから現在の業務と給与（加算方式）が介護職当事者からすると見合っていないと考える人が多いことがわかる。また、２５％が「職員の増員」を希望していることから、現場の人手不足の声も多いことがわかる。

<5> キーワード「K」について

→【グラフ】⑨～⑩参照

考察 「K」から想起する介護職のイメージを尋ねたところ、辛い「K」（か行の言葉）は、多数挙げられた。最も多い「給料が安い」で全体の１９％だった。「心身がきつい」「精神的にきつい」「汚い」「きつい」「危険」「体がきつい」がそれぞれ全体の意見の１０％前後となっている。
自由意見欄では、「精神的にきつい」の中には、責任感や利用者への配慮からくる大変さも伺い知ることができる。また、身体の危険を感じる職員が一定数いることから、対策が求められる。
一方、やりがいについては圧倒的に「感謝」「ありがとうの言葉」が挙げられている。「ありがとう」を人から言ってもらえるだけでなく自らも感謝の心が持てるという意見もあった。

<6> 関心を持ってほしい人について

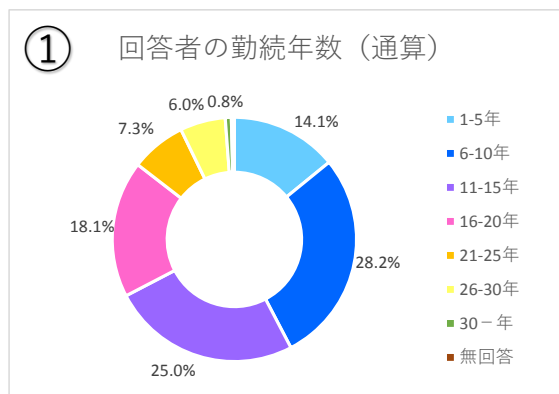
→【グラフ】⑪参照

考察 介護の仕事についてもっと知ってほしい人として最も多く挙げられたのは「利用者の家族」だった。自由意見欄でも介護職の範疇と利用者家族が求める行為との認識の違いや、利用者の状態への理解度の差についてなど理由が挙げられている。次に多かったのは「10代（若年層）」。これは職員の人手不足と関連が深い。
その他では、行政や政治家に対して現状把握や制度面の改善に期待を込めた意見が見受けられた。

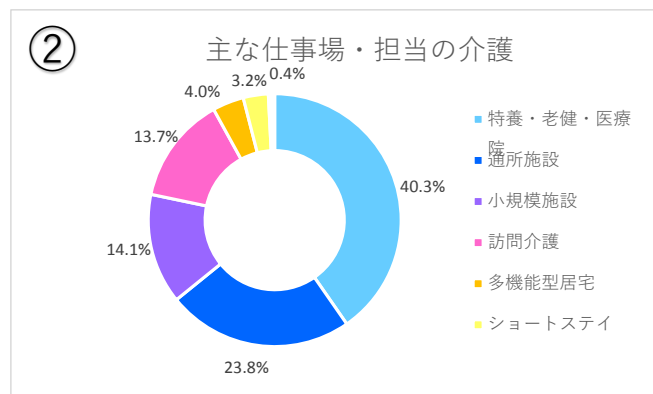
介護職アンケート 結果【グラフ】

回答者について

設問: 介護職として従事して何年ですか？

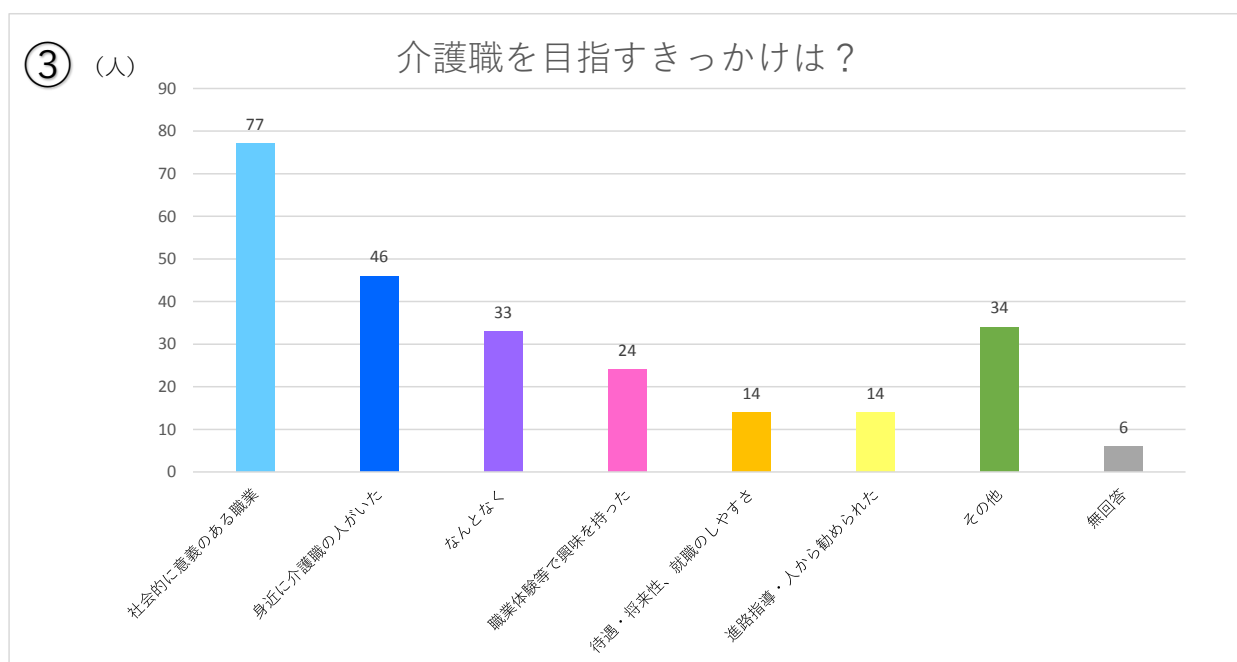


設問: 現在の主な仕事・担当は？



その他：訪問介護の事務所の事務

設問: 介護職を目指すきっかけは？

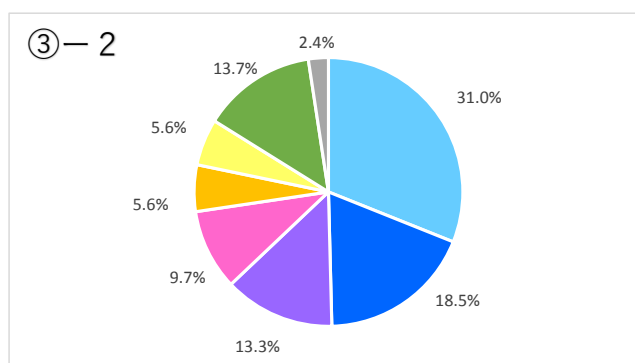


その他: 自由記入欄 ⇒ 詳細は別紙参照

家族のため	13人
人が好き・高齢者が好き	10人
就職・仕事のしやすさ、将来性	9人
人からの勧め	9人
福祉の仕事がしたい	6人
授業・体験がきっかけ	3人
人・社会の役に立ちたい	2人
その他	4人

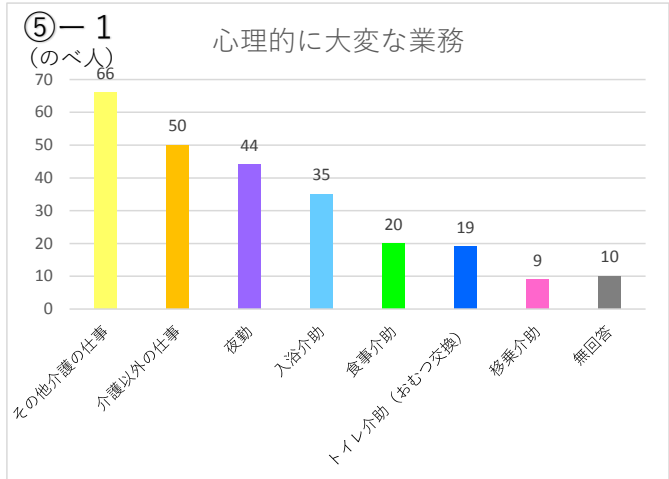
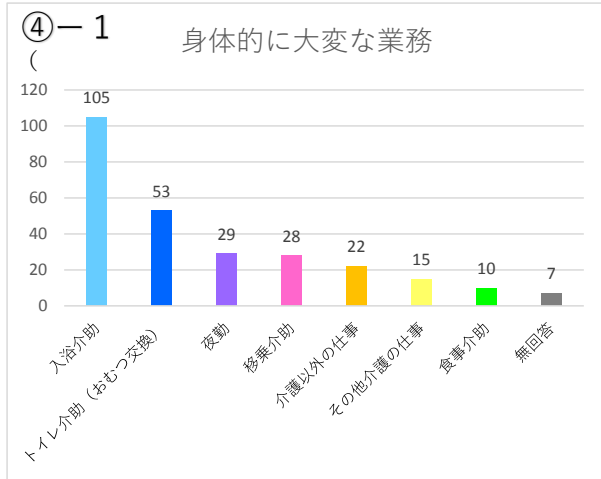
⇒ グラフは【その他】選択でも自由記入欄の内容から既設選択肢に再カウントして作成

補足: 全体割合での表示

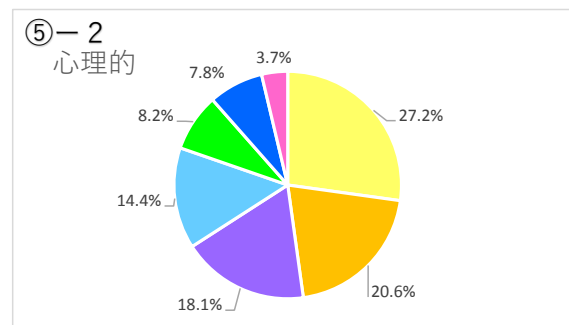
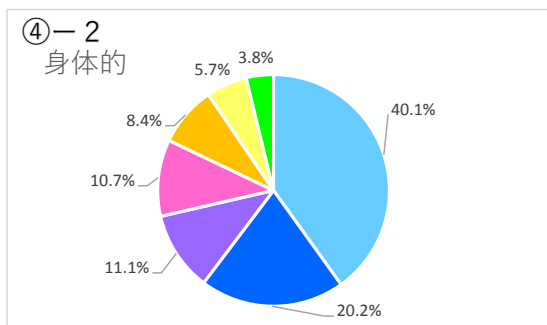


大変な業務・やりがいを感じる業務について

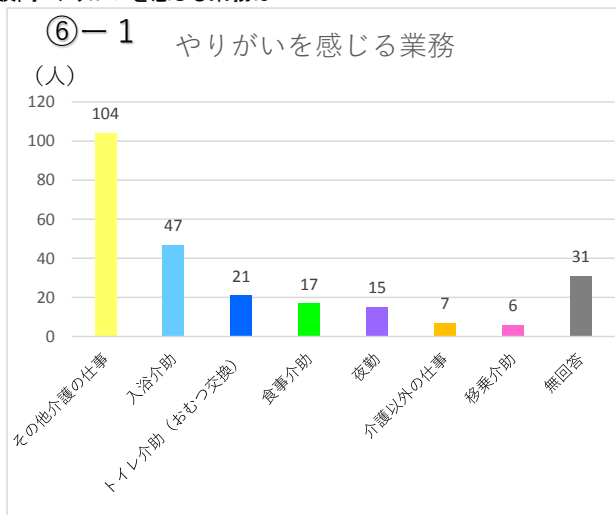
設問: 大変な業務は？



グラフ作成にあたって、設問では「1つ選択」としたが、複数回答する回答者が数名いたため、のべ数としてカウントした概算として以下円グラフを作成したが、重複があるため回答者数に対する割合ではない(母数: 回答数)

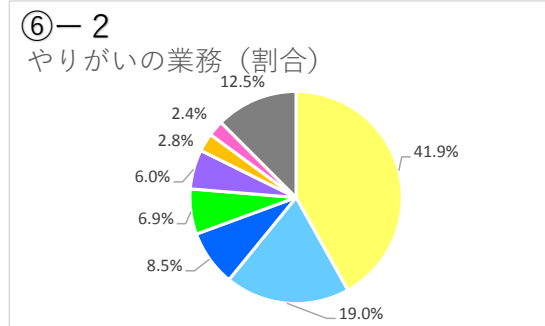


設問: やりがいを感じる業務は？



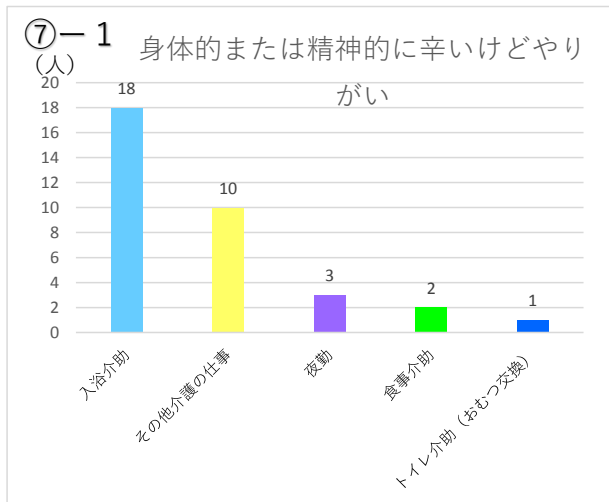
【その他介護の仕事】および【介護以外の仕事】: 自由記入欄
⇒ 詳細は別紙参照

⇒ グラフは【介護以外の仕事】選択でも自由記入欄の内容から利用者とのふれあい等については【その他介護の仕事】に再カウントして作成



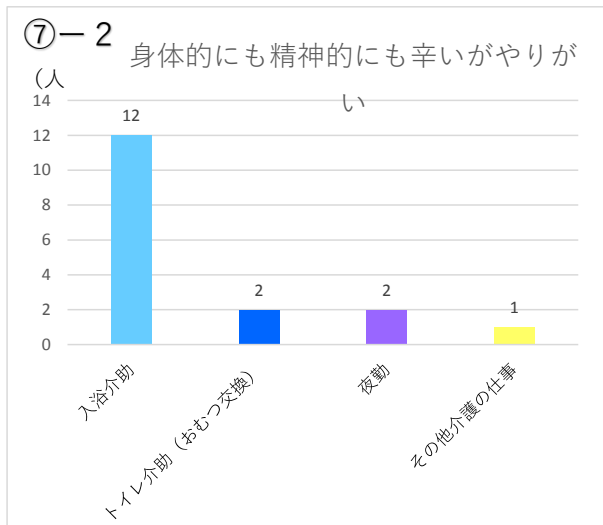
分析／「身体的」または「精神的」に辛い「やりがい」でもある

該当者 34人(全体の13.7%)



分析／「身体的」にも「精神的」にも辛い「やりがい」でもある

該当者 17人(全体の7%)



【その他介護の仕事】: 自由記入欄

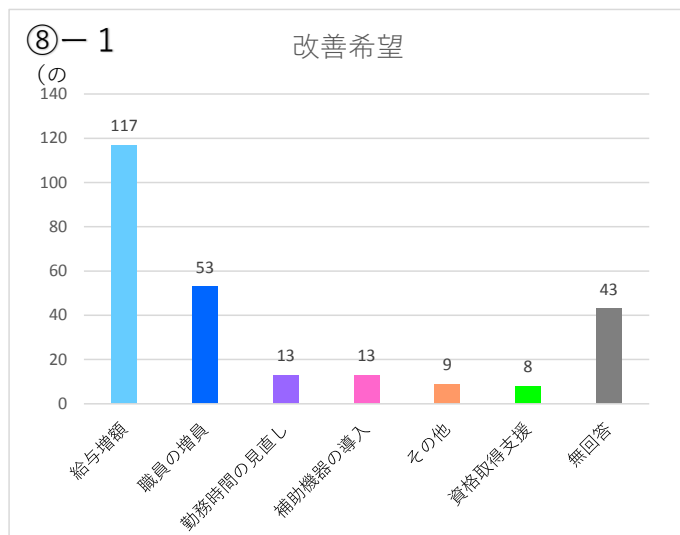
- ・BPSD(認知症の行動・心理症状などの周辺症状)の対応
- ・人間関係
- ・拒否がある方との接し方／気持ちが通じ合えた時
- ・個別性をもったコミュニケーション
- ・利用者とのコミュニケーション、信頼関係
- ・認知症、利用者の要望への対応
- ・コミュニケーション
- ・人への接し方／利用者さんとの会話や心の交流
- ・在宅介護でのコミュニケーション
- ／コミュニケーションによる笑顔・信頼

【その他介護の仕事】: 自由記入欄

- 身体的辛さ／精神面・認知症の対応、身体的痛みの把握と対応
- 精神的辛さ／一人一人の性格や身体の痛み、
 - 認知症に合った対応、
 - 各人の機能レベルに合った対応
 - ・行動等に気が抜けない
- やりがい／その方に合った安楽な姿勢を取ってあげる対応、
精神面での対応で笑顔を見ること

改善要望について

設問:改善を希望するのは？



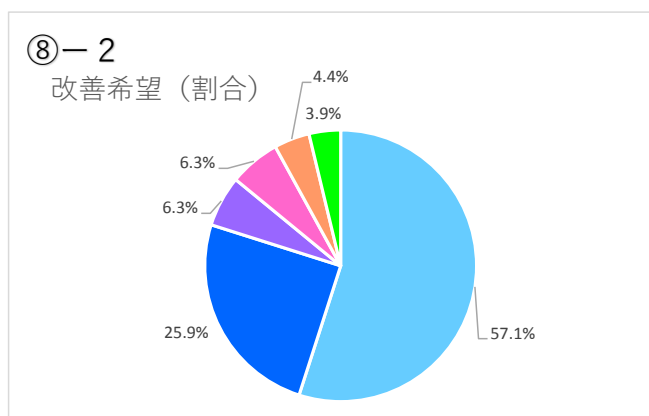
⇒ グラフは【その他】選択でも自由記入欄の内容から既設選択肢に再カウントして作成

⇒ グラフ作成にあたって、設問では「1つ選択」としたが、複数回答する回答者が数名いたため、のべ数としてカウント

自由記入欄

＜給与・待遇＞

- ・加算制度を決める際に、それにかかる労力とコスト、利益がみあっているかよく考えてから制度を作ること
- ・土日や祭日の訪問加算があってもよいのではないでしょうか（夜・朝加算や深夜加算があるように）
- ・職員の給与増額
- ・手当
- ・体がきつい、特養はもっと給料を上げるべき
- ・夜勤時間を短く3交代制、8時間にすること
- ・休日を増やす



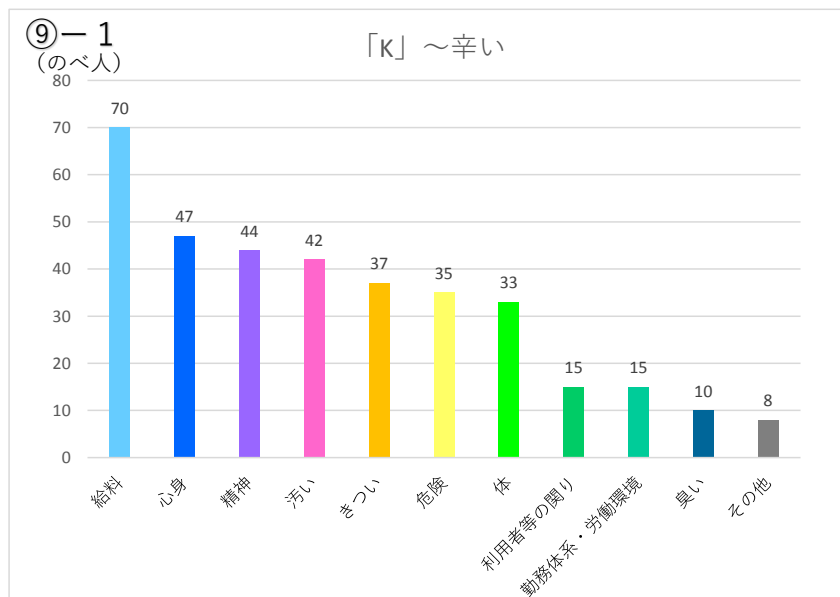
＜労働環境及び業務改善等＞

- ・行政が各施設を巡回し、現状の課題を把握し、アドバイスや指導また課題と一緒に解決できるような取り組みを行ってほしい
- ・考え方一式、自分のしなければいけない仕事
＋上下前後左右の人たちの動きに合わせてたり助けたりする
- ・拘束の基準をはじめすべての項目が該当する
- ・人員の選び方
- ・月2回の行事、人手が足りない
- ・特に訪問介護は高齢化しており、若い年代の力が必要。若い人が安心して長く働ける（出産・育児休暇等）職場を改善してほしい
- ・イメージの悪さ（知人などに介護に携わっていると話すのがとても嫌です。
誰もやりたがらない仕事、どこにも行けなかった人がいくところという認識があると思います。
とても失礼な話だと思いますが私自身もそう感じます。
看護師等のように社会的地位、イメージが向上しないと賃金等よくなっても業界に来てくれる人はいないと思います
- ・書類の簡素化、電子化

キーワード「K」について

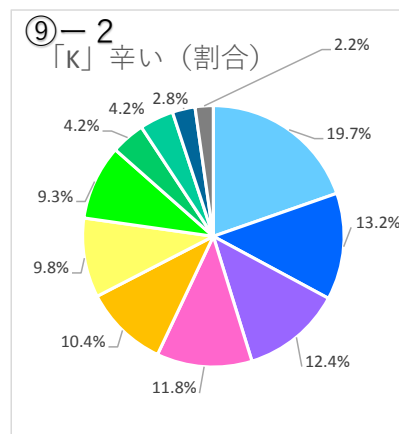
設問:「K」から思い浮かぶ介護職の辛い部分は？

実際の回答については別紙:③ 「K」から思い浮かぶ辛い部分



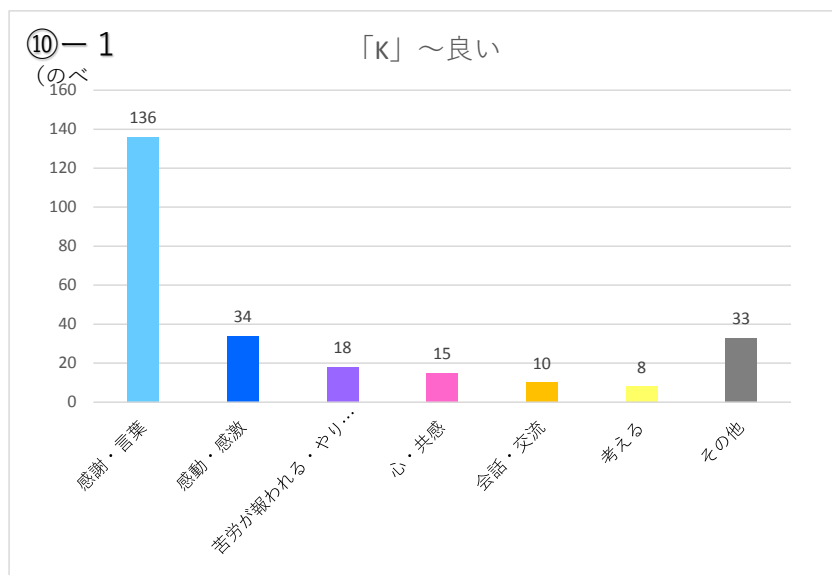
複数回答のため累積換算でグラフを作成

「きつい」は「体力的・精神的」と「体力的」と「精神的」と「その他」に分けて算出



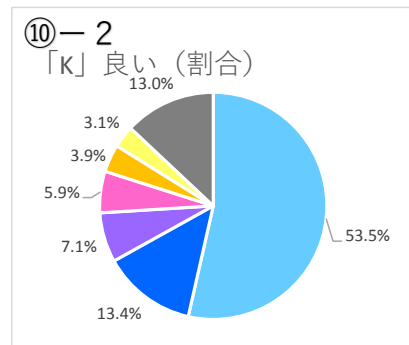
設問:「K」から思い浮かぶ介護職の良い部分は？

実際の回答については別紙:④「K」から思い浮かぶ良い部分

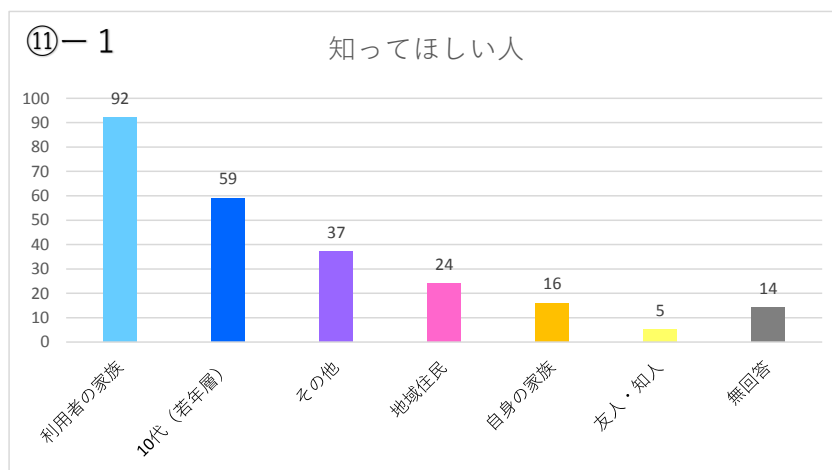


複数回答のため累積換算でグラフを作成

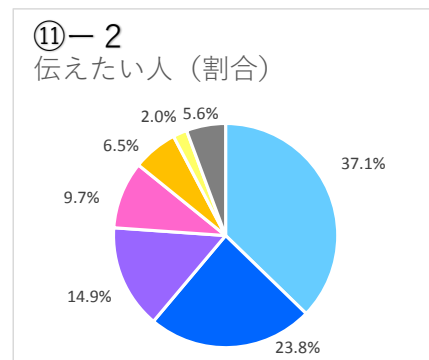
「感謝」はする／されるをまとめて算出
その他でも類似意見は別紙詳細の欄で
とりまとめ



設問:もっと関心を持ってほしい人



設問では「1つ選択」としたが、1名だけ
複数回答(10代と地域住民)したので
回答は複数カウントした



上記選択の理由の自由記入欄は別紙:⑤ 介護職を知ってほしい人を選んだ理由